

シカに関する現状について

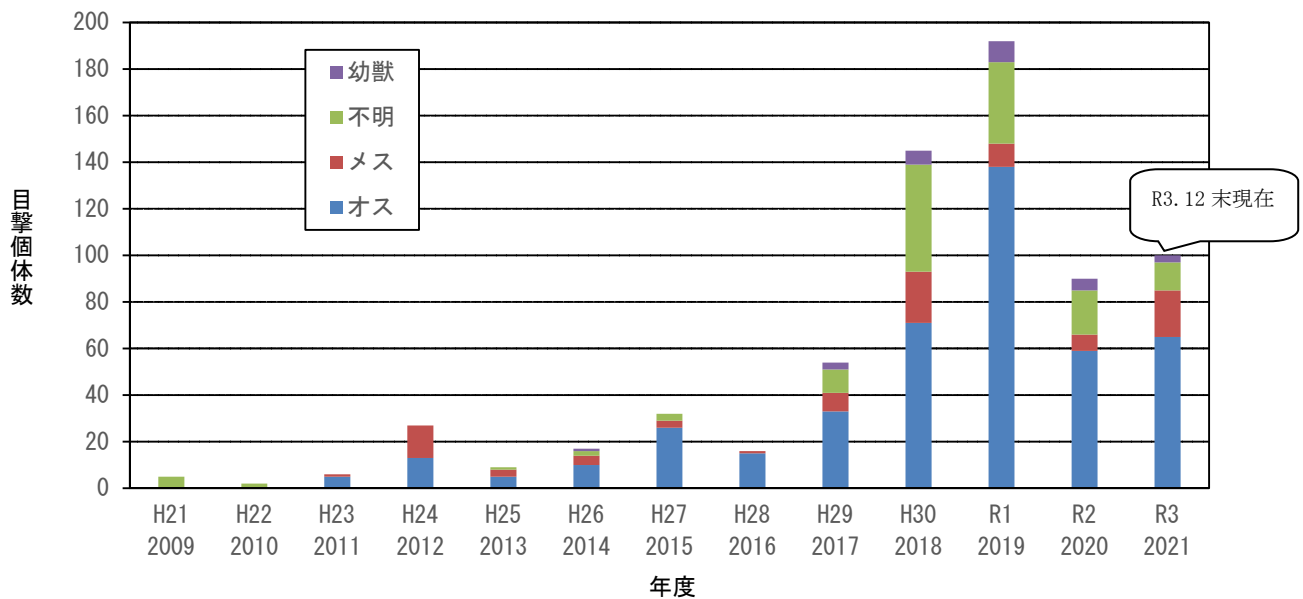
1 シカの生息状況

(1) ニホンジカの見撃等の状況

平成 21 年 6 月に大石田町檜沢で 1 件目の交通事故（この年は 5 件全てが交通事故）による死亡個体が報告されて以降、見撃件数が徐々に増えている。【図-1】

なお、近年は、調査・研究用カメラで撮影される件数が多くなっている。

見撃個体の構成は、当初はオスの見撃がほとんどであったが、メス及び幼獣の見撃情報が増加傾向にあり、県内での定着・繁殖の可能性が高い状況となっている。

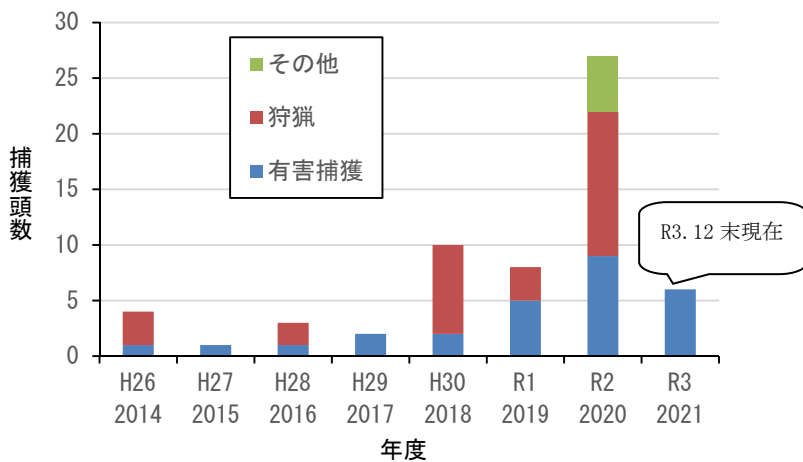


【図-1】年度別の県内のニホンジカ見撃個体数
(平成 21 年度～令和 3 年度)

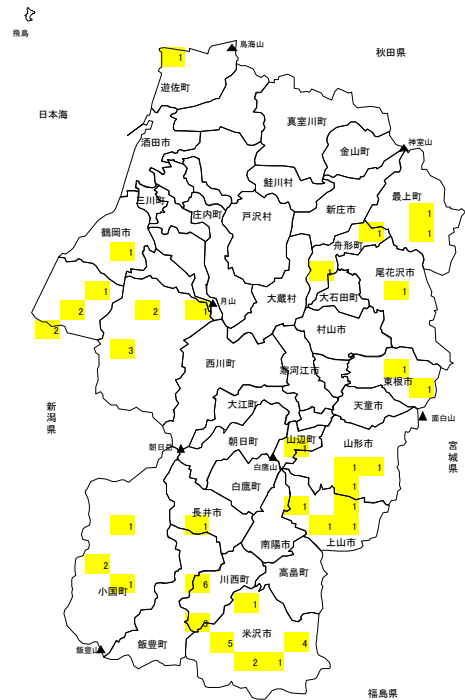
(2) 捕獲の状況

平成 26 年 12 月に米沢市で 2 頭が狩猟により捕獲されて以降、平成 26 年度～平成 29 年度までの捕獲数は 1～4 頭で推移していたが、平成 30 年度は 10 頭、令和 2 年度は 27 頭と増加傾向にある【図-2】。

これまで捕獲された地域は【図-3】のとおり。平成 26 年度から令和 2 年度にシカの捕獲が確認された地点は、県内を約 5km×5km のメッシュで区分したとき、総メッシュ数 432 のうち 34 メッシュであり、県内の総メッシュ数の約 8%にとどまるが、県内の村山、最上、置賜、庄内地域の全てで捕獲されてきている。



【図—1】年度別の県内のニホンジカ捕獲数
(平成26年度～令和3年度)



【図—2】捕獲地点メッシュ図
H26～R2

3 シカによる被害の状況

(1) 農林被害の状況

農業被害については、平成30年、令和元年に最上町における水稻被害が1件ずつ報告されている。

令和2年度は、米沢市の3地域、鶴岡市の1地域で農業被害が確認された。【図—3】

林業被害は報告されていないが、平成27年2月に長井市で狩猟により捕獲されたシカの胃から大量の杉の葉が見ついている。

山形県ニホンジカ管理計画では、農林被害の抑制を目標に掲げ、シカによる農林業被害メッシュ数を令和6年度時点で20以下にすることを目標としている。【表—1】

【表—1】山形県ニホンジカ管理計画の農林被害抑制の目標

項目	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	目標 R6 (2024)
シカによる農林業被害メッシュ数	1	1	4	20以下



【図—3】農林業被害発生状況
(令和2年度)

(2) 森林生態系被害の状況

自然の植生や生態系への被害については、まだ目立ったものはないが、鶴岡市大鳥地内においてシカによる広葉樹の樹皮剥ぎの報告がある【写真3、4】。

今後、シカの生息域の拡大と生息数の増加が進めば、貴重な植物群落や植物種の消失や生態系のかく乱など、生物多様性に影響を及ぼすことが懸念される。



【写真3】 ツリバナの食痕
平成31年2月 鶴岡市大鳥地内
山形大学撮影



【写真4】 ミズキの樹皮剥ぎ
平成31年2月 鶴岡市大鳥地内
朝日庄内森林生態系保全センター撮影

4 狩猟等による捕獲圧の確保

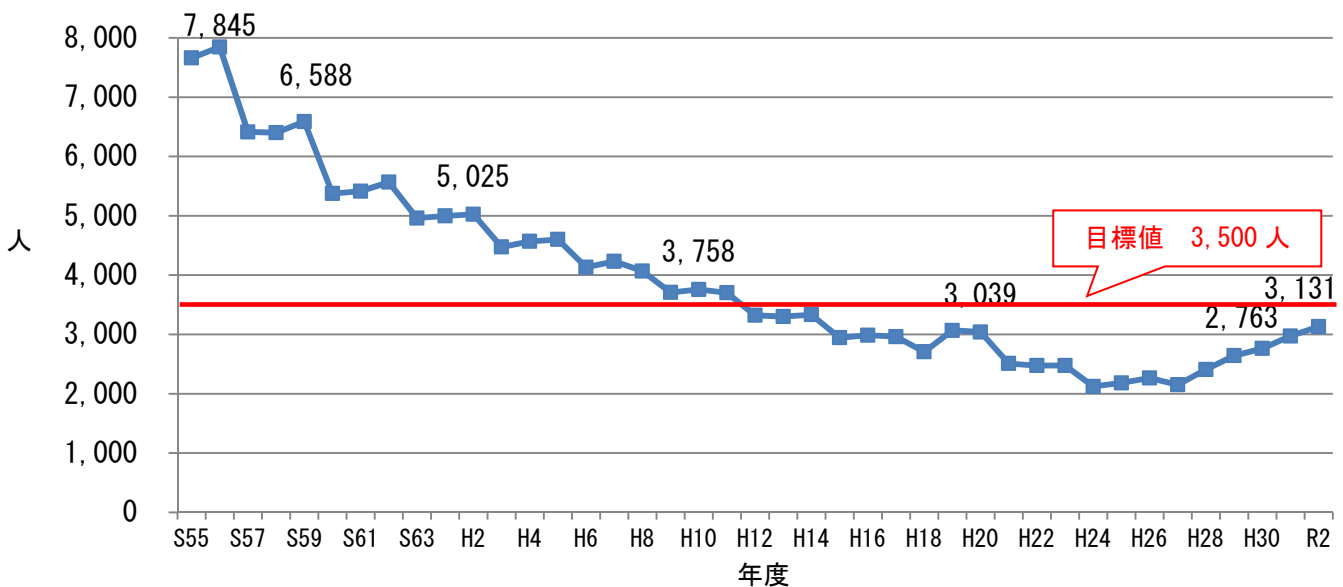
(1) 狩猟免許所持者数（延べ数）

狩猟による捕獲圧を更に高めるため、引き続き狩猟者の確保・育成を推進している。

〈現状値〉 2, 763人 （平成30年度の狩猟免許所持者数）

〈R 2〉 3, 131人

〈目標値〉 3, 500人 （令和6年度の狩猟免許所持者数）



【図-4】 県内の狩猟免許所持者数の推移

ニホンジカ関連事業の概要

1 シカによる森林被害緊急対策事業（R2：5,513,350 円、R3：830,000 円、国庫）

【事業の目的】

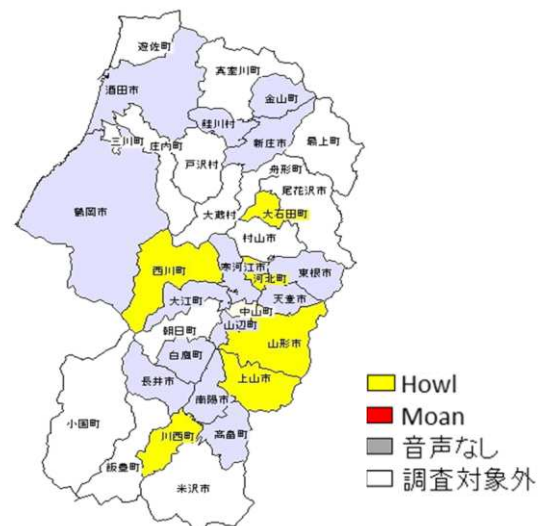
低密度地域での調査手法として報告されているボイストラップ（江成・江成，2020）を活用し、繁殖や被害をいち早く把握し対策を講じるため、主に低密度の中でも特に目撃の少ない地域でのモニタリング調査（ボイストラップ）の有効性について実証する。

【令和 2 年度 実績】

調査地において、moan（縄張りを形成する優位オスが発する鳴き声）は観測されず、繁殖が進む兆候は確認されなかった（表 1、図 1）。

監視重点地域（遊佐町小野曾、鶴岡市山五十川、小国町綱木箱ノ口）における自動撮影カメラによる撮影の結果、3 か所とも前年に比べ撮影頻度が減少し、調査地付近における個体数の急激な増加は確認されなかった。

確認地点	発声回数（回）
西川1	5
川西2	2
大石田1	8
山形2	4
上山1	2
河北1	8
河北2	14



【図 1】ボイストラップによる音声確認市町村
（令和 2 年度）

【令和 3 年度 計画】

令和 2 年度と同一か所で引き続き調査を行う。

2 大型野生動物生息動向調査（R2：1,523,500 円、R3：1,525,700 円、やまがた緑環境税）

【事業の目的】

人間と野生動物との共生を図り、野生動物の保護及び管理の手法を検討するため、自動撮影カメラや市町村アンケートにより県内の大型野生動物に関する生息動向調査等を実施するとともに、収集した生息域等の情報を基に、第二種特定鳥獣管理計画の策定及び評価・検証に関する基礎資料等を作成する。

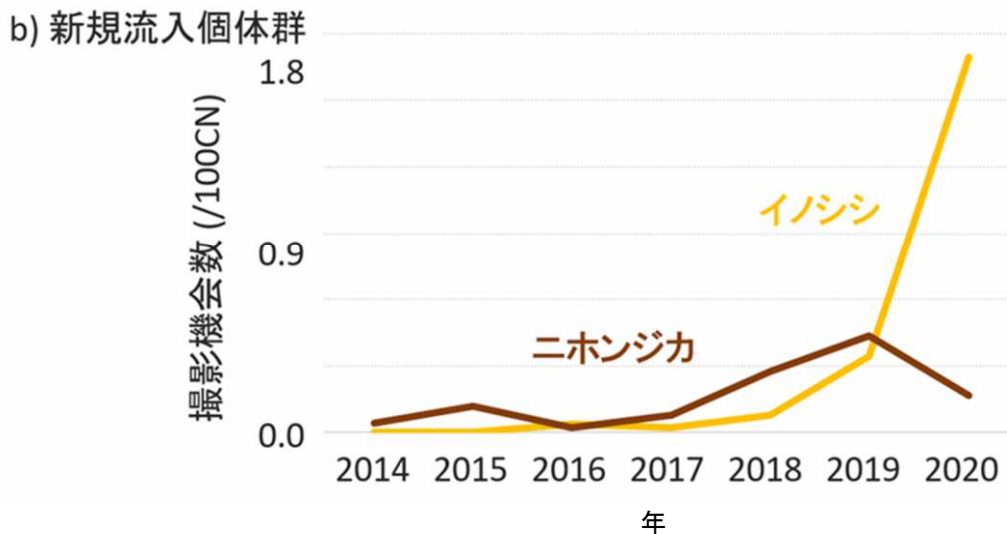
【令和2年度 実績】

自動撮影カメラによるニホンジカの撮影機会数について、2016年以降、シカの撮影機会数は増加傾向にあったが、今年度は減少した（図2）。

撮影される時期のほとんどは10月で、性別は雌雄不明の1回を除き、すべて雄であった。

侵入初期段階から定着初期段階への移行を示唆するデータは得られなかった。

市町村アンケートでは、「シカが生息する」と回答した市町村は大幅に増加し、県内ほぼすべての市町村で確認される状況になった。



【図2】ニホンジカの撮影機会数の経年変化

【令和3年度 計画】

令和2年度に引き続きモニタリング調査を行う。

3 ニホンジカ試験捕獲調査（R2：2,175,250円、R3：2,612,500円、一般財源）

【事業の目的】

ニホンジカが爆発的に増加する前の早い段階で捕獲を強化するため、ニホンジカの越冬地等を調査し、捕獲を実施する。

【令和2年度 実績】

米沢市で、銃によりオス2頭、メス3頭の計5頭捕獲。

【令和3年度 計画】

鶴岡市温海地域及び米沢市で計15頭の捕獲を目標とする。

4 希少野生植物植生調査（シカ食害調査）（R3：344,300円、やまがた緑環境税）

【事業の目的】

ニホンジカによる県内の希少野生植物の食害が懸念されるため、モニタリング調査を実施することにより、的確にその植生を把握し、適切な被害対策に活かす。

【令和3年度 計画】

県内2地域で希少野生植物の植生調査及び食害調査を行う。